

令和元年6月24日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03200

研究課題名(和文) ポスト世界文学に向けた比較詩学的共同研究の基盤構築

研究課題名(英文) Constructing a basis of joint research of comparative poetics toward "Post World Literature"

研究代表者

福島 伸洋 (Fukushima, Nobuhiro)

共立女子大学・文芸学部・准教授

研究者番号：00711847

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 14,000,000円

研究成果の概要(和文)：これまで「世界文学」の正典は、欧米の文学界(文学作品の出版・読者・批評などによって構成される世界)を中心に定められ、全集などが編まれてきたが、わたしたちは、欧米という地政学的な「中心」から外れた、「半周縁」や「周縁」と位置づけられる言語や地域の文学を、その口承性(文字で書かれ、多くの場合は黙読される文学と対比されるものとして)や、島嶼性(地理的に中心と離れて、独特の発展を遂げるものとして)に着目して扱った。さまざまな国・言語を研究対象とする文学研究者が集まって研究内容を発表し、討議することを通じて、「世界文学」についての新たな視座を探ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、文学作品の翻訳において目立った成果を上げることができた。研究協力者の金子奈美がバスク語から翻訳した長篇小説『ムシエ 小さな英雄の物語』(2015年刊)は第2回日本翻訳大賞を受賞した。研究代表者の福島伸洋は、ヴィニシウス・デ・モライスの戯曲『オルフェウ・ダ・コンセイサオン』をポルトガル語から訳した(2016年刊)。また、研究分担者の鶴戸聡はカメル・ダーウドの小説『もう一つの「異邦人」』をフランス語から訳した(2019年刊)。本研究に参加した研究者それぞれが、これまで注目されることの少なかった言語・地域の文学作品に光を当てるような研究を行い、新しい世界文学の地図を示すことができた。

研究成果の概要(英文)：While the orthodox of "world literature" has been defined almost exclusively by the Western literary world (one composed of publishers, readers, and critics of literary works) and canonical literary collections have been compiled in a similar way, our research dealt with the languages and regions regarded as "semi-peripheral" or "peripheral", which deviate from the geopolitical "center" such as Europe and the US, focusing on orality (as contrasted with a literature written and often silently read) and islandness (to be geographically separated from the center and thus achieving unique development). And we, literary researchers who focus on various countries and languages, gathered together to present and discuss each one's research, and were able to explore a new perspective on "world literature."

研究分野：ブラジル文学

キーワード：ポスト世界文学 オラリティ(口承性) 島嶼性 マイナー文学

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

世界文学全集と銘打った全集は、日本では、20世紀のうちに、大手出版社によって繰り返され編まれてきたが、そこに含まれる大半の作品は、フランス、ドイツ、ロシア、イギリス、アメリカなど、欧米の「メジャー言語」で書かれたものであることが多かった。近代文学という制度そのものが、西洋に端を発するものであることを鑑みれば、そのようなある種の偏りにはやむをえない部分があるとしても、「言葉を用いた芸術」という広い意味での文学は、広範な地域に見られる普遍的な文化であり、またそれは必ずしも、文字によって書かれた「書物」という形を取るだけではない。

そこで本研究のメンバーは、既存の文学観からはこぼれ落ちてきたような、「マイナー」な言語や地域の、これまで「周縁」に位置づけられてきた文学作品に積極的に着目し、「世界文学」の概念を作り替える必要がある、という認識を共有していた。

2. 研究の目的

本研究課題「ポスト世界文学にむけた比較詩学的共同研究の基盤構築」は、第一に、いわゆる「マイナー」な言語による作品の原典精読を通じて文学の詩的効果の問題を再検討し、第二に、ヨーロッパ中心主義への反省として現れた「世界文学」概念を批判的に乗り越え、多言語、多地域を横断する文学批評の新たな見取り図を示すことを目的とする。その特色はまず「島嶼性」と「オラリティ」の二つの主題の元に、周縁に置かれてきた文学を起点として世界の文学を捉え直し、現代社会において同時多発的に生起する問題系と文学の関係を考察すること、そして、従来の分担執筆とは異なる共同執筆型の総合研究によって言語、国家の枠を超えた議論のプラットフォームを構築しようとする点にある。

3. 研究の方法

各自が、研究対象とする作家・作品の分析などを行い、定期的開催される研究集会にてその成果を発表し、討議を通じた意見交換を行い、問題意識を共有する。また、メンバーを、研究対象とする作家・作品にゆかりのある地域に派遣し、作品の舞台の調査や、一次資料の収集を行う。研究成果を、論文や学会にて発表するほか、著作物として公開する。外部の聴衆にも開かれたシンポジウムを開催し、社会還元のひとつの形とする。

4. 研究成果

本研究では、これまであまり紹介されてこなかった言語・地域の文学作品の翻訳・紹介の成果が目立った。第二回翻訳大賞を受賞した、研究協力者の金子奈美がバスク語から翻訳したキルメン・ウリベの長篇小説『ムシェ 小さな英雄の物語』、研究代表者の福嶋伸洋がポルトガル語から訳したブラジルの詩人ヴィニシウス・ヂ・モライスの戯曲『オルフェウ・ダ・コンセイサオン』、研究分担者の鵜戸聡がフランス語から訳したアルジェリアの作家カメル・ダーウド『もう一つの「異邦人」』である。

他にも、研究分担者・協力者が、それぞれに、これまで比較的「マイナー」と見られてきた言語・地域の文学作品の研究を進め、その結果を踏まえて選び、解説を付した世界文学アンソロジー(短篇集)を、全体の成果として、松籟者より刊行する予定である。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計22件)

中村菜穂「近代イランの抵抗の歌の期限をめぐって アーレフ・ガズヴィーニー(1879頃1934)における詩的言語についての一考察」、『東洋研究』211巻、2019年、1-33頁、査読あり

中村隆之「高橋和巳における政治性の否定」、『高橋和巳の文学と思想:その志と憂愁の彼方に』、2018年、179-193頁、査読なし

鵜戸聡「「引揚げ文学」の問いを開く」、『立命館言語文化研究』29-3巻、2018年、109-115頁、査読なし

福嶋伸洋「戯曲『オルフェウ・ダ・コンセイサオン』(一九五四年)と詩人ヴィニシウス・ヂ・モライスにおける黒人表象の問題」、『モダニズムを俯瞰する(中央大学人文科学研究会研究叢書)』67巻、2018年、283-296頁、査読なし

中丸禎子「父の娘」のノーベル文学賞セルマ・ラーゲルレーヴ『ニルスの不思議な旅』が描く国土と国民のカノン」、『文学』17-5巻、2016年、89-113頁、査読なし

細田和江「ヘブライ文学からイスラエル文学への系譜:イスラエルのアラブ圏出身作家とパレスチナ・アラブ人作家による新たな潮流」、『ユダヤ・イスラエル研究』30巻、2016年、47-61頁、査読なし

[学会発表](計29件)

中村隆之「反逆の反響(エコー):コレット・マニー『弾圧』(1972)に見るブラック・ア

アメリカ」 共立女子大学文芸学部文芸教養コース主催シンポジウム「アメリカ大陸のブラック・ミュージック」 2019年

福嶋伸洋「黒人に憧れる白人たち リオデジャネイロ、ニューヨーク、ロンドン」 共立女子大学文芸学部文芸教養コース主催シンポジウム「アメリカ大陸のブラック・ミュージック」 2019年

古川哲「プラトーフとドストエフスキーの比較を再考する」 日本ロシア文学会、2018年
三枝大修「イヴ・ボヌフォワの「鳥」」 慶應義塾大学経済学部主催シンポジウム「鳥たちのフランス文学」、2018年

金子奈美「バスク語文学における創作と翻訳 文学作品における翻訳の表象をめぐる予備的考察」 「世界文学・語圏横断ネットワーク第6回研究会」 2017年

〔図書〕(計11件)

カメル・ダーウド(鶴戸聡訳)『もう一つの「異邦人」』 水声社、2019年、208頁

ヴィニシウス・ヂ・モライス(福嶋伸洋訳)『オルフェウ・ダ・コンセイサオン』 松籟社、2016年、172頁

中村隆之『エドゥアール・グリッサン 全-世界 のヴィジョン』 岩波書店、2016年、225頁

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：中村 隆之

ローマ字氏名：Takayuki Nakamura

所属研究機関名：早稲田大学

部局名：法学学術院

職名：准教授

研究者番号(8桁)：20510085

研究分担者氏名：鶴戸 聡

ローマ字氏名：Satoshi Udo

所属研究機関名：鹿児島大学

部局名：法文教育学域法文学系

職名：准教授

研究者番号(8桁)：70713981

研究分担者氏名：中丸 禎子

ローマ字氏名：Teiko Nakamaru

所属研究機関名：東京理科大学

部局名：理学部第一部教養学科

職名：准教授

研究者番号(8桁)：50609287

研究分担者氏名：三枝 大修

ローマ字氏名：Hironobu Saigusa

所属研究機関名：成城大学

部局名：経済学部

職名：准教授

研究者番号(8桁)：80707662

研究分担者氏名：細田 和江

ローマ字氏名：Kazue Hosoda
所属研究機関名：東京外国語大学
部局名：アジア・アフリカ言語文化研究所
職名：助教
研究者番号（8桁）：80779570

研究分担者氏名：奥 彩子
ローマ字氏名：Ayako Oku
所属研究機関名：共立女子大学
部局名：文芸学部
職名：教授
研究者番号（8桁）：90513169

(2)研究協力者

研究協力者氏名：金子 奈美
ローマ字氏名：Nami Kaneko

研究協力者氏名：小林 久子
ローマ字氏名：Hisako Kobayashi

研究協力者氏名：山辺 弦
ローマ字氏名：Gen Yamabe

研究協力者氏名：古川 哲
ローマ字氏名：Akira Furukawa

研究協力者氏名：中村 菜穂
ローマ字氏名：Naho Nakamura

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。